



野木小学校だより

# 野ぎくの子

校長室から 2024/1/22

2023年度 学校教育目標

「自ら問い 自ら考え 自ら行動する」

【めざす児童像】

よく考える人・自分や人を大切にする人・チャレンジする人



## You Only Live Once

1月18日に人権集会を行いました。今年は、視覚障がいマラソンランナーをされている青竹レイ子さんと車いすバスケットボール日本代表選手の古崎倫太郎さんをお招きして、アイマスクでの歩行体験や競技用の車いすを使用しての鬼ごっこ、フリースローなどの体験をさせていただきました。

後半の講演会では古崎さんから、早いうちに夢を持つこと、たとえくじけそうになっても目標に向かって努力し続けることの大切さを語っていただき、心が熱くなりました。トレーナーに書かれた古崎さんのモットーである「You Only Live Once」(人生一度きり)の文字がまぶしく輝いて見えました。

このようにいろいろな人とふれ合い、いろいろな考え方や生き方にふれる体験が、子供の心を耕し、健全な人権感覚を身に付けていく上で重要なことだと考えています。



## 野球しようぜ



メジャーリーグで活躍中の大谷翔平選手から寄贈されたサイン入りグローブ3個(大、小、左投げ用)が本校にも届きました。日本の全小学校約2万校に3個ずつ贈られたということで、前代未聞の、子供たちへのビッグなプレゼントです。これはまさしく、「陰徳」(裏面参照)ならぬ「陽徳」ですね。

全校児童へのお披露目の会では、体育主任から、「どんとどんといいねいに使ってボロボロにしてください。」との話がありました。



学校関係者各位

貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンゼルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介しますためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。

それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平

## ～2月のおもな行事予定～

- 2月 3日(土) 学習発表会 教育講演会 第2回家庭・地域・学校協議会
- 2月 5日(月) 3日の振替でお休み
- 2月11日(日) 建国記念の日
- 2月12日(月) 休日
- 2月13日(火) 4年生あいさつ運動週間(～16日)  
職員会議 14:30一斉下校
- 2月14日(水) 新1年生体験入学
- 2月19日(月) 町教育研究会 14:30一斉下校
- 2月22日(木) 学校公開日(2限 9:25～10:10 3限 10:25～11:10)  
※地域の皆様もお気軽にご参観ください。
- 2月23日(金) 天皇誕生日



### 3 学期始業式の校長講話 1月9日

明けましておめでとうございます。今年は辰年です。辰年は「物事が大きく動き、変わっていく年」とされているそうですが、今年のスタートはお隣の石川県で起きた地震や飛行機の事故など大きな出来事が続きました。1月1日の夕方に起きた地震ではこの辺りも震度4の揺れでしたが、その時みなさんはどこでどんなことをしていましたか。地震が起きたときは、避難訓練でも練習したように、「まず低く 頭を守り 動かない」が基本ですが、どんな行動をとりましたか。

では、冬休み中に私が読んだ本を一冊紹介します。安田善次郎という人について書かれた伝記です。安田善次郎は江戸時代の終わり頃に富山県の貧しい家で生まれましたが、若い頃に東京に出て、苦勞しながら働いて、たくさんの銀行をつくったり、つぶれかけの銀行を立て直したりして、最後には大金持ちになりました。「銀行王」と呼ばれるまでになりました。今のみずほ銀行や明治安田生命、損保ジャパンなどの大きな会社も安田善次郎がつくったものです。

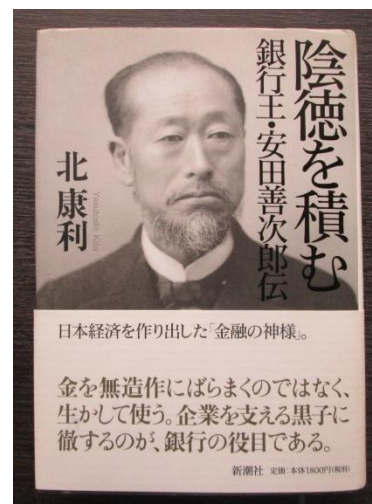
この本には安田善次郎が一生大切にしていたことが書かれています。貧乏人から大金持ちになった安田善次郎がずっと大切にしていたこと、それは上手なお金のもうけ方とかではなく、「陰徳」ということです。陰徳とは、人や世の中に知られず、ひそかに行うよい行いのことです。安田善次郎は小さい頃からお父さんに「人にほめられようとしてよいことをするのではなく、誰にも気づかれなくても、人のためになることを黙々としなさい。」とたたきこまれて、その教えを一生守りました。例えば、若い頃お店に勤めていた時に、たくさんの人が出入りして履物がぐちゃぐちゃに脱ぎ捨ててあるのを、誰に言われなくてもすぐにきれいに揃えました。紙くずや布の切れはしが落ちていたらすぐに拾って捨てました。そしたら、そのお店はどんどんお客さんが増えていったそうです。また、26歳で初めて食品を売る店を開いたときには、朝4時に起きて自分の家の前だけではなく隣の2軒と向かい側の家の前をはいてきれいにしました。朝4時というときまだみんな寝ていて善次郎がそんなことをしてくれているとは誰も気づきませんね。これらのようなことを人の見ていないところでやり続けて、店は次第に繁盛し、もうけたお金でさらに大きな会社を作り、だんだんと大金持ちになっていきました。陰で人のためによりよいことをすることが、結果的にめぐりめぐって自分のためになるということを安田善次郎は教えてくれます。陰徳を積むことによって実は天への貯金をしていたというわけです。

善次郎は決して無駄遣いをせず、周りの人たちからはケチと思われていましたが、世の中のためになるようなことにはたくさんの寄付をしました。寄付をするときも、陰徳の教えを守り、こっそりと人に知られないようにびっくりするほどの大金を渡したそうです。

東京大学という日本でトップの大学にもシンボルとなるような立派な建物を作るお金を寄付しました。この時も安田善次郎の名前を出さず、みんなに分らないように寄付をしました。安田善次郎が亡くなった後、これを知った人たちが、この建物に「安田講堂」という名前を付けました。

みなさんは、誰も見ていないところでよいことをしたなあということはあるですか。または自分じゃなくても、友達や誰かがふと自然によりよいことをやっているのを見かけたことはありますか。人間はやらなくてもいいけれど、人のためになるようなことをどれだけやれるかが、その人の心の美しさを表すのだと思います。陰徳を積める人は心の美しい人なのです。

さあ、今日から毎日何か一つは陰徳を積んでいくことを心がけてみましょう。3学期の間にどれだけ陰徳が積めるか、チャレンジしてみましょう。



東京大学安田講堂